

# 鳥取県内の生涯学習情報が満載！



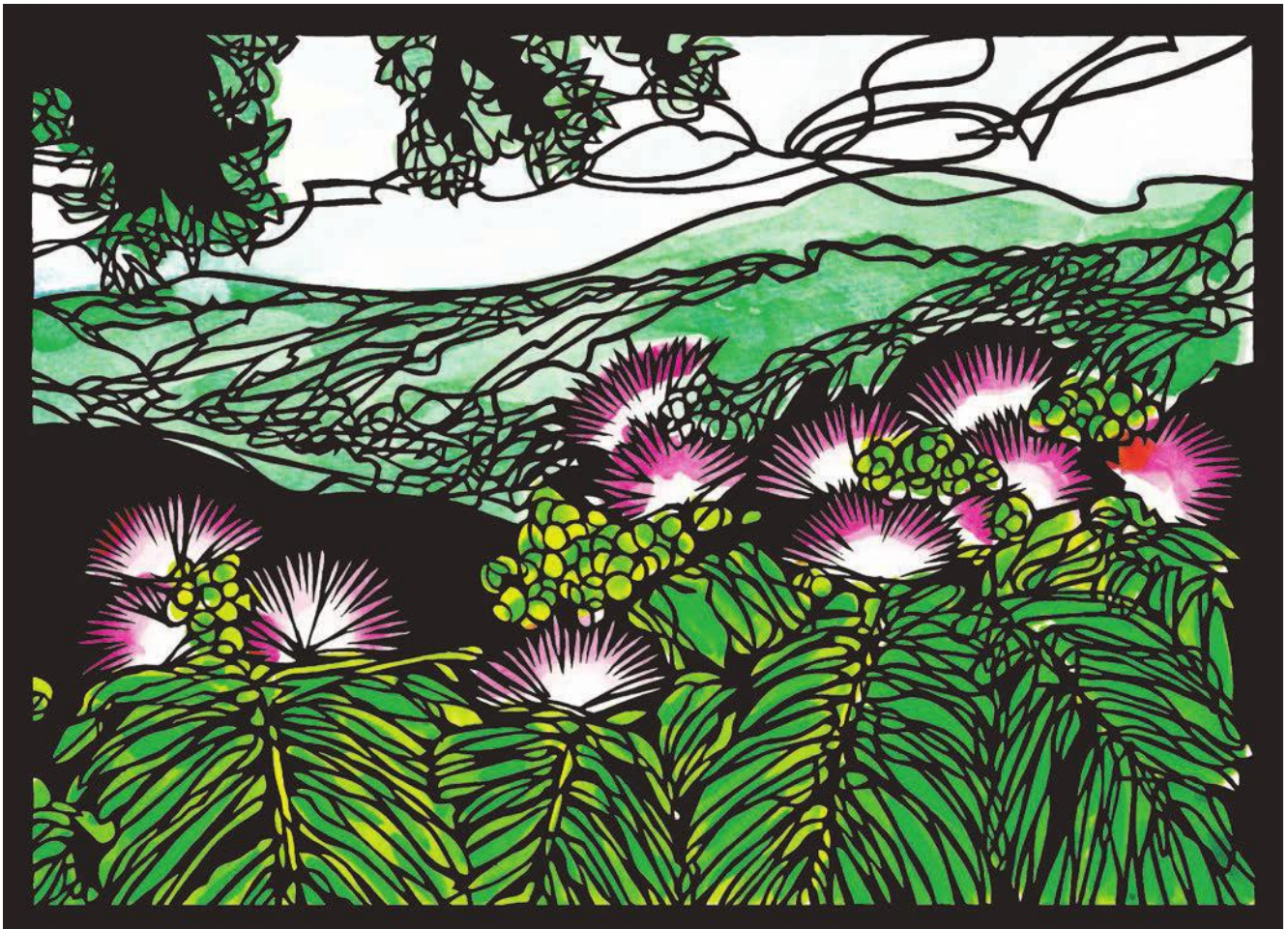
ページ

## 1 特集

### 猫の魅力を学び合う場をつくりたい!!

CAZADOR (カサドル)

- 4 とっとり県民カレッジ連携  
生涯学習講座情報（7・8月）  
とっとり県民カレッジで熱心に学ばれた皆さんを紹介します
- 22 シニア活躍総合相談窓口
- 23 私たちの活動を紹介します！  
カリンバスこやか倶楽部
- 24 この夏は「星取県」で星を極めよう！  
鳥取市さじアストロパーク
- 25 鳥取県立生涯学習センター（お知らせ）
- 27 鳥取県立大山青年の家



「切り絵シリーズ」 ネムノキの花（琴浦町）

蝶が舞い降りたかのようなネムノキの花。一向平キャンプ場へ向かう道沿いを彩ります。

絵・文：紙原 四郎 氏



# 猟の魅力を学び合う場をつくりたい!!

## CAZADOR (カサドル)



いづち  
井土さん

東京都出身/島根県在住/銃猟  
昨年まで鳥取県で林業に従事  
自然環境に関心があります!

谷口さん

びよん  
辺さん

高橋さん

大阪府出身/琴浦町在住/わな(箱、くくり)  
農作物の被害を減らしたい! 学生時代に、琴浦町で放課  
後児童クラブのボランティアを経験。町民の温かさに触  
れ、そのときから、琴浦町への移住を決意していました!

森本さん

鳥取市出身/鳥取市在住/わな(箱)  
林業をしながら、週末ハンターとして活動。  
命をいただくことを体験したい! 自分の子  
どもたちにも命の大切さを学んでほしい!

イベントでジビエタコスを提供

野生鳥獣による農作物の被害が増える中、狩猟を学び合う場として有志でカサドル<sup>※(1)</sup>を結成。メンバーは30代から40代を中心に一年間で40名近くに増えました。平成29年度トトリズム活動表彰優秀賞を受賞。代表の高橋龍太さんにお話を伺いました。

※(1) CAZADOR カサドルとは、スペイン語で猟師の意味

### 独学で猟をするのは限界!

3年前に、大阪から「地域おこし協力隊」として琴浦町に移り住んだ高橋さん。有害鳥獣対策を中心とした里山保全を行う中で、協力隊の任期中の平成27年冬に、「わな猟免許」<sup>※(2)</sup>を取得しました。

しかし、免許は取ったものの、独学で猟をすることに限界を感じていたといいます。「獲物を捕獲することへの苦戦に加え、気軽に猟について話し合える同世代が周りにいなくて、モチベーションを安定維持させることにも悩んでいました」と振り返ります。農家の方から、イノシシの被害で困っているので、わなをかけてほしいと頼まれることも。「せっかく声をかけていただいたのに、全くかからなくて。まずは自分の技術を高めたいと思いました」と続けます。

その後、県生活環境部緑豊かな自然課が主催する新人猟師を対象にした「平成28年度鳥取県ハンター養成スクール」を受講し、同じように免許は持っているものの、獲物がうまく獲れない、もしくは獲ったことがないという人に出会いました。「自分だけじゃなくて、同世代の若い人がたくさん悩んでいることを知りました。それなら、情報交換をしたり学び合ったりしながら、みんなで技術を高め合っていきたい」と強く感じるようになったといいます。そこで、平成29年2月、ハンター養成スクール修了生の高橋さん、森本さん、井土さんの3人でカサドルを結成。琴浦町を

拠点として、本格的に活動しています。琴浦町は、農作物被害の8割がイノシシで、残りがカラスやヌートリアやシカです。山陰道を隔てて山側が特に被害が大きい地域です。「農作物の被害を少しでも減らして農家の方が安心して農業ができるように、そんな環境づくりのために少しでも役に立つことができれば」と高橋さんは言います。

### 実践あり、交流あり

「里山保全を目的に狩猟を通じてその魅力を感じ伝えること」がカサドルのモットー。メンバーは県内各地にいるため、企画会議や情報交換はグループLINEを利用します。活動は、解体施設を見学したり、県内のベテラン猟師から狩猟について実践的に学んだり、多岐にわたります。時には、イノシシやシカ肉をバーベキューや鍋にして楽しみ、メンバー同士で交流を深めます。また、イベントへ出店し、ジビエ料理の提供や活動紹介をすることもあります。

さらに、皮を活用するために、自分たちで皮をなめす体験や、工場へ持ち込んでなめしてもらった皮を使って、一般参加者を対象に名刺入れや小銭入れなどの革細工を作るワークショップを開催しました。今後は、シカの角やイノシシの牙の加工にもチャレンジしてみたいと加工方法を勉強中です。

また、以前、町内にある赤碓こども園から依頼があり、



イノシシのカラダの大きさや食べ物、生活方法などの生態や捕まえ方について、子どもたちに知ってもらうためにトーク会を開きました。「子どもたちの反応がすごかったです。生活発表会では、トーク会で聞いたことを子どもたちが劇にして発表したそうです」とほほ笑みます。「毎日普通にご飯を食べていると、生きているものの命をいただいているという実感がありません。これからもっと、子どもたちが命をいただくことの大切さを感じるような場面作りをしていきたいです」と意欲的です。

さまざまな取組をしているカサドル。「自分たちは、まちづくりをしているんだ！という意識はあまりなくて。今はもう、やりたいことが次から次に浮かんでくるので、新たなことにも挑戦したいと思っています。結果として何か地域の役に立てればうれしいです」と高橋さんは語ります。



わなづくりを体験



ジビエでBBQ！！



赤碓こども園でのトーク会



素敵な名刺入れが完成！！



獣皮なめし体験

※(2) わな猟免許  
 狩猟免許は、網猟免許、わな猟免許、第一種銃猟免許（装薬銃・空気銃用）、第二種銃猟免許（空気銃用）の4種があります。

## イノシシ、ニホンジカの生息状況

- イノシシ 県全体では微増。八頭郡は微減。 ※個体数推定は未実施  
 平成28年度捕獲数 11,970頭（内訳：鳥取市32%、八頭町9%、倉吉市・南部町8%、三朝町7%、琴浦町3%ほか）
- ニホンジカ 推定生息数：50,468頭（平成28年度、中央値）  
 増加が続く。中西部での増加率大  
 平成28年度捕獲数 7,274頭（内訳：八頭町37%、智頭町・若桜町19%、鳥取市15%、岩美町6%ほか）

## 農林業被害

鳥獣種	被害額（千円）		主な被害作物（被害額の割合）	被害状況
	平成28年度	平成27年度		
イノシシ	69,232	44,680	水稻（86%）、野菜類（9%）、梨（5%）	県下全域で被害が増加
シカ	2,368	3,994	水稻（44%）、造林木等（40%）、野菜類（10%）	被害は東部が中心であるが、県下全域で被害が減少

※シカは、農林業被害のほか、下層植生が食害され、森林が衰退する被害がある。

（資料提供元：鳥取県生活環境部緑豊かな自然課）

## 狩猟に新しいアイデアを導入したい！

捕獲した獣は、県内にあるいくつかの食肉処理施設で解体されて、「ジビエ肉」として県内外に流通させることができます。しかしそのように活用されているのは全体の15%ほど。活用率を上げるために何かできないかと日々思索しています。

「スムーズに処理施設に運搬するために、山から獣を降ろしてくるのを機械でサポートしたり、運搬用の人員を手配できないかなど、様々な分野で活躍されている方々に意見を聴いたり相談したりしています」。

また、わなを10カ所以上に仕掛けるので、獣がかかっているのを確認して回るのも大変。「メンバーで、曜日ごとに分担して、見回りをすれば、それぞれの負担も減ります。獣がかかるとセンサーが作動し、メールで知らせてくれるシステムの導入も検討しています」と話します。

## 活動をとおして見えてきたこと

ベテラン猟師に教わりながら活動する中で、地域の課題も見えてきました。地域の猟友会に所属する猟師は、平均年齢が60代後半。今の猟師が引退した後、だれも獲る人がいなければ獣は増える一方です。「今のうちに狩猟技術を教えてもらうことが必要ですし、課題だと思っています。若い人が狩猟免許を取って、地域の猟友会に入って活動をすれば、技術が受け継がれていくはず。カサドールの活動で、仲間づくりや学びをとおして若い猟師が育ち、それ

ぞれの地域でも猟を継続すれば、結果的に鳥獣被害を減らすことにもつながります」と熱く語ります。

## ネットワークづくりを目指す

活動を続けていく中で、鳥取市河原町で同じような活動をしている「<sup>みつ やきゅうえんたい</sup>三矢弓援隊」という団体と交流するなど、さまざまな団体や人との輪が広がっています。「フリーペーパーを作ったときも、デザイナーの方が協力してくださったり、鳥取在住の漫画家さんがイラストを描いてくださったりしました。カサドールを結成したことで、メンバー以外の人や団体とつながって、コラボもしています。新しいものを生み出しているという点が、活動をしていてとても楽しいです」とっこり。

3名で立ち上げたカサドールは、今では、学生から社会人まで40名近くにまで増え、活動も全県に広がりをもせつつあります。メンバーには、狩猟目的の人がいれば、ジビエや自然が好きな人もいます。「今までで一番うれしかったことは、狩猟免許を持っていない人が、免許取得に挑戦して、免許を取り、いっしょに活動する仲間が増えたこと。もっとこんな仲間を増やしたいですね」。

「最終的には、狩猟に関心がある都会在住者が鳥取に来て狩猟を体験し、それがきっかけで鳥取に移住してもらうことが目標」と情熱は尽きません。今後も、琴浦町を拠点に、県内全域で狩猟のネットワークづくりをしながら、全国展開も視野に入れての活動を目指します。

### 狩猟者(ハンター)の現状と傾向

- 狩猟免許の所持者数はこれまで減少を続けていたが、近年は増加傾向にある。
- 60歳以上が59%、40代までの若手が26%。世代交代が進みつつある。

【わな猟】 平成21年度に第一種銃猟免許を上回った。近年は新規取得者が大幅増加

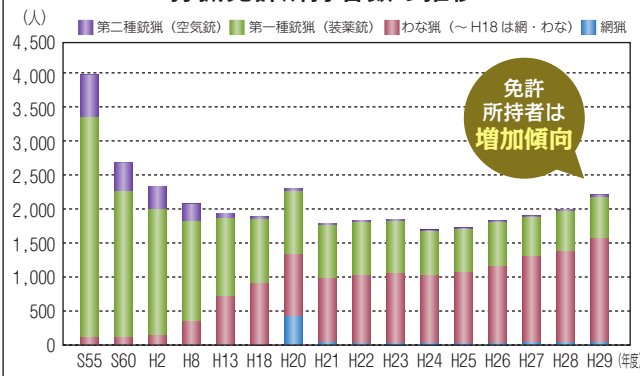
【第一種銃猟】 高齢化等により減少を続けているが、近年は若手の新規取得者が増加傾向にあり、世代交代の過渡期にある。

平成30年度の狩猟免許試験についての情報は、こちらから！

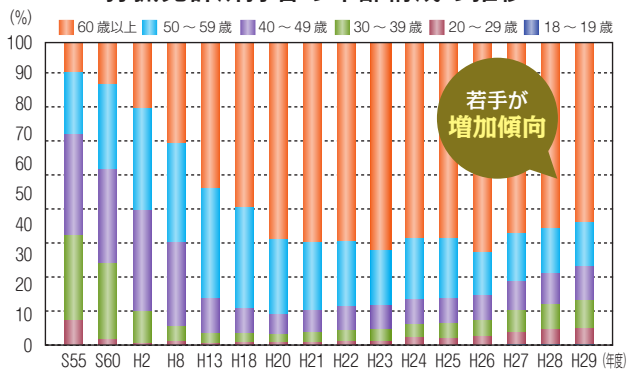
<http://www.pref.tottori.lg.jp/96933.htm> 検索

(問合せ先)  
鳥取県生活環境部緑豊かな自然課  
TEL (0857)26-7872

狩猟免許所持者数の推移



狩猟免許所持者の年齢構成の推移



(資料提供元：鳥取県生活環境部緑豊かな自然課)



連絡先／カサドール 高橋龍太さん

Facebook <https://www.facebook.com/cazador201702/>  
Twitter(代表) @ryota\_lionoil  
Eメール ryota881881@yahoo.co.jp

## トットリ新人狩猟者大集合!!

興味を持たれた方、  
ぜひ一緒に活動しませんか？  
※免許を持っていなくても入れます。